

創世記 第3章 9節

「神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。『あなたは、どこにいるのか。』」

呼び掛けてくださるお方がいるのは幸いだ。自分の思いに囚われ、歩むところをわからずウロウロしている者、そればかりか心の闇に囚われてしまった者にとり、外から御声が届くのは光となるはずだ。まして、ここでは主なる神が呼びかけるほど聴く者の居場所は、生きる場が喪失している局面である。四面楚歌どころか、自分自身のうちにも逃れることの出来ない、まるで蝸壺に入り込み、滅ぶしかない者への呼びかけである。どこまでも呼び掛ける主なる神の御声が響く。

「あなたは、どこにいるのか。」そこはあなたがいる場所ではありません。あなたにはあなたにふさわしい場所があります。その場所が用意されています。そして、あなたにはあなたが生きるにふさわしい道があります。あなたにしかない、とっておきの道があります。

主なる神がご用意してくださる場所と道がある。呼びかけに応える者は、真の自分を生きる自分に出会うことができる。この自分は自分から生まれるものではなく、語りかけてくださる主なる神が拓いてくださる場所と道である。この道に身を置く者は、すべてを備えてくださる主なる神との会話をしながら旅する人生を生き、喜び、感謝に包まれる。

2022年7月16日